

DF 会員が選ぶ「日本 100 名所」(仮称) 執筆要領

0. 管理タイトル

- ・原稿の管理用のデータです。
都道府県名と執筆者名(姓名)を記載。
例: 青森県 廣瀬駒雄

1. 題字

- ・文字数: 18 字以内
- ・取り上げた名所の内容を 1 行で簡潔に表現する。
季語の無い俳句の要領で、名所として取り上げた「切り口」を表現する。
- ・サブタイトルも考えておく。
(サブタイトルの取り扱いは原稿が出揃った時点での編集方針次第で決める。
サブタイトルの表現は、本文で処理しておいてもいい。)
- ・本の体裁は、1 エリアにつき見開き 2 ページ(A5 版の予定)

2. 本文

- ・文字数: 1400 字以内
原稿は、WORD 文書、A4 横書き、10.5 ポイント、修飾語を省き簡潔に記載。
- ・各エリアとも、執筆に際しての共通事項は 4 項目。
「日本の誇る歴史・文化」
「世界に誇れる自然景観」
「おもてなしの心を持った宿泊設備」
「和の食材を用いた美味しい日本料理」の 4 項目については必ず言及する。
- ・単なる観光案内と差別化するために、読者が『なるほどそのような視点で見ると、改めて面白いなあ』とか、また、当該エリアの関係者から『よくぞ当地を取り上げてくれた』と言われるよう、ストーリーのある旅の展開や、独特の切り口で紹介する筋立てにする。
- ・共通事項 4 項目の重点の置き方は、執筆者に任せる。
共通事項ごとに 350 字/項目ずつ割り当てる必要はない。
- ・本文の最後にカッコ書きで執筆者氏名を記入(○○△△)。

3. 写真(地図・図表なども含む)

- ・各エリア 3 枚(本文 1400 字の 40%のスペース(500~560 字分)を割り当てる。)
写真の下部に、「説明文」「出所」を記載する。
例: 姫路城 出所: 姫路市観光課パンフレット

執筆者自ら撮影した写真は、その旨記載する。

例：浅草雷門 筆者撮影 2015年

- ・引用する写真の著作権には十分に留意する。
- ・旅行案内パンフレット、インターネット上には素晴らしい景観を撮った写真がある。これらの画像を使用する場合には、予め文書等で作成者から掲載許可を取っておく。

4. 行程（見開き右ページの下部）

- ・一泊二日の旅行を想定したモデル行程を記載する。
本文を読まずともこのモデル行程を見れば、このエリアの凡その旅行イメージが湧くように具体的に記載する。
目的地には午前中に到着、翌日の観光は午後3時頃までを想定し、帰路の時間を確保。
- ・2回の昼食が取れるように明示する。
- ・具体的な場所を1日目も2日目も10か所/日以内で、二日分を記載。
1か所の字数は10字以内（1行10字以内）。
（紙面の制約から10か所以内としているだけで10か所を書く必要はない）

5. 基本データ（見開き右ページの右側1/3の箇所）

- ・この項には、14字×36行のスペースを割り当てる。
- ・基本データとして、具体的な固有名詞で、宿泊先、食事処、土産物店、博物館・文化施設、地元観光協会、自治体観光課等の連絡先を必ず掲載する。
その数は最低10か所（連絡先、住所、電話番号で3行×10か所）。
一般の旅行案内書には電話番号を載せていない。1データ（連絡先と電話番号）2行での紹介であれば最大18データ（連絡先）が紹介できる。
- ・この基本データで紹介する連絡先は、本が出版された暁には、本の購入者となる（可能性の高い）人たちです。読者の利便の用に供するだけではなく、出版計画の採算も考えて基本データを選別して記載してください。
- ・取材時などのタイミングに、事前に購入の依頼をすることが考えられますが、実際には「現物の本」がないので難しい。また、すべての（或いは主だった）連絡先に事前購入依頼をすることは現実的ではないし、執筆者の中にはそのような行動がとれない方もいます。
- ・この基本データは執筆者の負担ともかかわる箇所です。とは言え、その負担の見極めが難しい。現時点では「執筆者募集（案内）」の6. 執筆者の負担（Bシナリオ）に記載したような中途半端な状況になっています。
現時点では、事柄は流動的です。出版事業の進行につれて事態が明らかになりましたら、お知らせします（エリア単位の負担にするか、執筆者単位の負担にするか、また、負担を減らす、或いは無くする方策はないかなど、検討中です）。

6. 原稿の作成形式

- ・原稿は、上記の記載順序に従って「管理タイトル」「題字」「本文」「行程」「基本データ」「写真データ」順に、WORD文書で作成する。
- ・A4 縦の用紙に横書き、字体はMS明朝、10.5 ポイント
- ・別添（後述 10）の資料を参考にしてください。

7. 写真データの取り扱い

- ・文字原稿に続いて、写真データをWORD文書（A4用紙1ページ）に貼り付ける。
- ・写真データは、写真そのものの大きさ、写真のタテとヨコのサイズが異なり、原稿作成時に文書内に納めることは難しい。電子化された写真データは、編集時に配置やサイズなどを出版社において設計してもらいます。

8. 原稿の修正・変更

- ・本のタイトル、題字、本文などについて、出版社の編集者から修正・変更依頼があることをご承知おきください。

9. 作成期限

- ・原稿作成は、年内（平成 27 年 12 月）を目途。出版時期は、平成 28 年夏の予定
- ・原稿が 30 エリア程度出揃った時点で、A4 見開き 2 ページ（A3 で 1 ページ）で本の仕上がりイメージに編集したものを作成し、原稿の形式や方向性など足並みを揃えることや、原稿作成の促進のための参考とすることを予定している。
- ・具体例は、廣瀬さんが既に作成した「津軽海峡縄文文化」「リンゴの故郷、麗峰岩木山麓を訪ねて」「奥州平泉中尊寺を訪ねる」「リバークルーズ、タワーからツリーまで」「戦国時代の二城址を持つ小田原」「日本最古の私鉄南海電車の車窓から」「美しく装い新たな姫路城」などのA4見開き2ページ原稿です。

10. 原稿のひな形（以下の順序に従って原稿を作成してください）

（次ページ）

0. 管理タイトル（「都道府県名」「執筆者氏名」を冒頭に記載）

1. 題字（18字以内：内容を1行で簡潔に表現）

2. 本文（1400字） 本文末尾に（執筆者氏名）を記載

3. 行程

[1 日目行程]

①（1行10字以内）

②

③

④

⑤⑥・・・⑦⑧⑨ ⑩項目以内

[2 日目行程] （1 日目行程と同じ要領）

4. 基本データ（14字／行×36行 のスペース）基本データは最低10か所を記載

[基本データ①：14字以内／行以内]

住所（省略可、必要に応じて記載）

電話番号（「基本データ」と「電話番号」であれば2行で済む。18データの記載が可能）

[基本データ②：14字以内／行以内]

住所

電話番号

5. 写真

・文字原稿に続いて、A4用紙1ページに写真データ（3つ）を貼り付ける。

写真データは、写真そのものの大きさ、写真のタテとヨコのサイズが異なる。原稿作成時に文書内に納めることは難しい。

写真は、編集時、拡大・縮小され、適切な箇所に配置される。

従って写真データは、電子化したものを準備する。

・データ形式は、スキャナーで取り込み電子化し、それをWORD文書上に「図表」として貼り付ける。あるいは既に電子化された写真データをコピー&ペーストで取り込む。

・それぞれの写真に「写真のタイトル」「出典」を記載する。

以 上

(平成 27 年 10 月 1 日：高木健次作成)